

長い梅雨が明けた途端の猛暑でした。世の中は「夏休み」というご機嫌な時期であるにもかかわらず、お盆の帰省もままならないいつもの夏とは別物の暑い暑い夏となりました。

多摩地域の魅力

梅雨に入れば収まるだろうと噂されていた COVID-19、収まるどころか益々猛威を奮っています。お陰でこの春夏は居住地近くで過ごすことが増え、改めて多摩地域の魅力を再発見しています。私は茨城県の鹿嶋市出身で、最近まで自分は自然豊かな田舎の出だと信じてきました。ところが、今住んでいる東京の西の方では、春には「歩いて」近くの緑地に筍掘りに、この夏はこれまた「歩いて」近くの公園で累計50匹以上のカブト

ムシとクワガタを捕獲しました。今、カブトムシが産んだたくさんの卵が孵化し、50匹以上の幼虫を飼育しています。もう少し大きくなったら畑の堆肥場にお招きし、堆肥化促進及び土作り業務に勤しんでもらう予定です。なんとも自然のサイクルに沿ったナチュラルなライフスタイルをここ「東京」で実現しつつあるのですが、こんなことは車がないと生活できない鹿嶋では不可能です。この多摩地域は計画的に宅地開発され、その結果残された

自然が居住地に密着して点在します。ちょっと散歩に出れば豊かな自然と触れ合うことができるのです。日々、自転車やカブトを往復したり週末に子どもたちと自然の中で遊んだりしているうちに、私の中で「田舎」の概念が大きく変容しました。夏だジブリだではありませんが、ジブリの作品の多くにこの多摩地域がモデルとして描かれています。どこか懐かしいあの原風景と私の中の「田舎」が少しずつリンクし始めたような気がしています。（太）

DVD「真剣に学ぶ」

月刊秘伝2020年9月号(8月12日発売)が、ジュンク堂書店池袋本店の男性実用書ランキング第二位にランクインしたそうです。この9月号には、DVD「真剣に学ぶ」(8月30日発売)の告知を裏表紙一面に掲載頂き、特集記事を巻頭グラビア、そして本編をフルカラーで6頁に渡って掲載して頂きました。記事の中で「寄り添う」という基本コンセプトについて書いていますが、これは当社の「顧客に徹底的に寄り添い”共に歩む”」という事業コンセプトそのものでもあります。また、本通信の武士道の徳目「礼」に書いたように、「寄り添う」というのは「礼」の本質でもあります。テーマは武術であっても本質的な部分で仕事や日常生活に活かして人生をより豊かにする内容、というのが私の目指している武のあり方であり文武両道です。同様に今度発売するDVDもあくまで武術の技法を紹介した体になってはいますが、その実、実生活でこそ生きる内容となっており、主に人の上に立つ人に向けて作りました。技法面はさておき、武術稽古を通じて人の上に立つに相応しい人格を身につける、その方法論をぜひともご覧いただければと思っています。（太）

ようこそ太仁亭へ！

本紙2019年2月号で、パイナップルがどれだけ好きかという記事を掲載しました。果肉はもちろん食べます。削ぎ落した芯は黒酢と黒糖に漬けてピネガードリンクを楽しんだ後、チャツネとしてカレーに利用。残る皮はミミズコンポスト行きとなり、余すことなく使い切るというもの。ところが、この皮が更に有効利用出来るようになりました。インド藍をブ

ドウ糖建てという方法で還元して染液を作る際に、ブドウ糖としてこのパイナップルの皮を利用するのです。アフリカでは完熟バナナを利用するそうですが、染色の師からバナナの皮でもと聞き、我が家で日々消費されるパイナップルが思い浮かびました。この8月に試験染めをしたところ大成功。アベノマスクが「藍のマスク」に生まれ変わりました。（仁）

武士道を仕事に活かす-5 「武士道の徳目-礼」

義・勇・仁・礼・誠・名誉・忠義という武士道の7つの徳目の内、今回は3番目の仁についてお話ししました。今回は、4番目の礼について。礼とは相手に対する思いやりやおもてなしの心が目に見える形で表された動作です。武道では「礼に始まり礼に終わる」という言葉があります。これは、ビジネスや日常生活における人間関係においてもとても重要な概念であり、子供に武道を習わせたい一番の理由は「礼儀作法を身につけさせたい」からだそうです。また、礼儀作法という言葉が示すとおり、礼には、最善優美な型、形式、方法論があります。そ

れは単に優美だけではなく、合理的で道理にかなない一挙一動に一切の無駄のない洗練された作法に昇華されたものです。武士の行動や生き方が美しいのはまさに礼儀作法を身につけているからであり、礼を欠いた武は単なる野蠻であり無礼となります。振る舞いが単に美しく型通りであればよいというわけではなく、そこには必ず相手があり、相手を思いやる心が伴わない丁寧過ぎる言葉遣いや態度はかえって慥慥無礼いんげんがれいとなります。いついかなる時も失礼にならないように、相手に寄り添い最適な言動を心がけたいものです。（太）

今月のお豆ちゃん

生後2,000日目(多分)に、絵本『しろくまちゃんホットケーキ』を見ながらホットケーキを焼きました。「卵を割って牛乳入れてよくかき混ぜるのね」というところをお豆ちゃんが担当。「ぼたあん だろだろ ぴちぴち 焼けたかな？まあだまだ」のところでは、焼けたかな？の後がもう焼けた！で大慌て。それから、バナナとキウイをお豆ちゃんがカットして飾り付けも担当。バナナマンなホットケーキが出来上がりました(仁)



水田

畑に向かう途中で幾つかの水田があります。今年も稲の花を見ることができました。この時期、灼熱の往復路で小川の流れやこの水田の水面を目にすることができるのは、ほんの僅かでも涼を感じられるありがたい光景です。風がそよぎ、稲の根元に陽の光が射し込んだ瞬間を撮影できました。加工作業中、中央にアメンボが写っていたことに気がきました。どこにいるか分かりますか？(仁)

編集者：後藤紅仁子

kuniko-goto@ccore.co.jp

発行日：2020.8.24 処暑（しよしょ）

綿村開（わたのはなしべひらく）

発行所：株式会社コンセプト・コア

☎192-0373

八王子市上柚木 2-63-10

TEL/FAX 042-697-7473

https://ccore.co.jp/

過去号：ウェブサイト↑からご覧頂けます。